

■「食品に関するリスクコミュニケーション【栃木】ーみんなで話そう！食の安全ー」■報告

日時:平成20年6月30日(月) 13:00~16:30

場所:宇都宮市保健所 3階 大会議室

主催:食品安全委員会・栃木県・宇都宮市

参加者:52名(消費者、事業者等)

目的:①参加者同士が食品の安全について話し合うことを皮切りに、身近なところから食の安全について理解を深め、情報の交換及び共有を図ること。

②食品安全委員会が実施した指導者育成講座やリスクコミュニケーター育成講座受講者(以下、講座受講者)の活動の機会を設けるとともに、講座で学んだ内容を生かし、新しい意見交換会の手法をモデルとして実施する。

議事:

(1)オリエンテーション

(2)DVD上映「21世紀の食の安全～リスク分析手法の導入～」

(3)グループディスカッション

全体コーディネーター:堀口 逸子(順天堂大学医学部公衆衛生学教室助教)

講座受講者:各グループに食品安全委員会が実施する食品の安全性に関するリスクコミュニケーター育成講座の受講者をファシリテーター及び書記(ファシリテーター補佐)役として配置した。

内容:

・参加者52名が8グループに分かれ、「食に関して気がかりなこと、興味があることは何か」をテーマとして話し合いをし、各グループの話し合いの中から1つのテーマに絞込み、ディスカッションを行った。

・ディスカッションは、各グループのファシリテーター及び書記役を中心に「問題点を解決するために、ということがされたらよいのか」、「問題点を解決するために、自分たちは何ができるか」などを念頭に進めた。

・最後にまとめとして、グループごとに「食の安全を守るために必要だとわかったこと」等を発表した。

・参加者からは「このような小さなグループで話し合いをする機会がなかったので、様々な立場の人の意見が聞けてよかった。」といった感想が寄せられた。

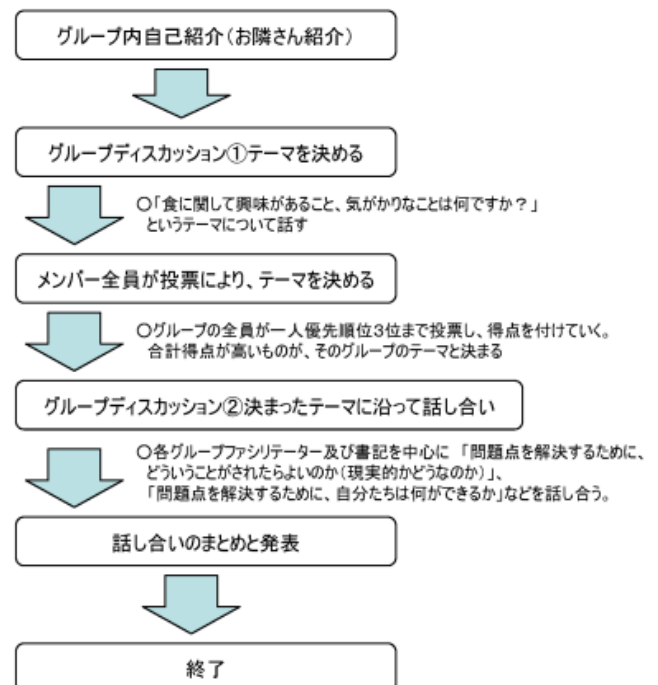
各グループで話し合われたテーマ:

Aグループ 賞味・消費期限、Bグループ 食の安心・安全、Cグループ 賞味期限

Dグループ 食物の賞味期限切れでもどれくらいまで大丈夫か、Eグループ 食品の安全性とは

Fグループ 食品表示偽装について、Gグループ 消費者は何を基準に食品を購入しているのか

Hグループ 輸入物の安全性について



※ 参考1に会場の様子(写真)、別紙1に参加者アンケート結果を添付。

(参考1)

「食品に関するリスクコミュニケーション(栃木)ーみんなで話そう！食の安全ー」実施概要

～会場の様子～

宇都宮市保健福祉部生活衛生課長の開
会挨拶



グループディスカッション: テーマ「食に
関して興味のあること気になりなことは
何ですか」



県の広報テレビ「とちぎテレビ」が撮影



食の安全のために必要だと思ったこ
と等グループ発表



(別紙1)

食品に関するリスクコミュニケーション(栃木)ーみんなで話そう！食の安全ー

参 加 者 数	51
アンケート回収数	43

<アンケート記入者について>

①性別

回答内容	件数	割合
男性	18	41.9%
女性	25	58.1%
無回答	0	0.0%
計	43	100.0%

②年齢

回答内容	件数	割合
20歳未満	0	0.0%
20歳代	2	4.7%
30歳代	6	14.0%
40歳代	14	32.6%
50歳代	8	18.6%
60歳代	6	14.0%
70歳代以上	7	16.3%
無回答	0	0.0%
計	43	100.0%

③職業(立場)

回答内容	件数	割合
①消費者団体	5	11.6%
②主婦・学生・無職	11	25.6%
③生産者(農林水産業従事者)	0	0.0%
④食品関連事業者・団体	9	20.9%
⑤マスコミ	0	0.0%
⑥行政(自治体職員、独法職員)	11	25.6%
⑦食品関連研究・教育機関	0	0.0%
⑧その他	7	16.3%
()		
無回答	0	0.0%
計	43	100.0%

その他()

8	企業, 給食受託会社
18	民間企業, 栄養士
25	農業団体職員
29	管理栄養士
32	鮮魚小売商
34	宇都宮市雀宮地域食生活改善推進員
39	宇都宮市雀宮食生活改善協議会
42	ヘルスメイト

④意見交換会情報入手手段

回答内容	件数	割合
食品安全委員会HP	0	0.0%
栃木県HP	0	0.0%
宇都宮市HP	1	2.3%
食品安全委員会メールマガジン(e-マガジン)	5	11.6%
栃木県メールマガジン	0	0.0%
関係者からのご案内資料	29	67.4%
知人からの紹介	2	4.7%
その他	5	11.6%
無回答	1	2.3%
計	43	100.0%

	その他()
4	FAX(食品安全委員会より)
8	食育応援団よりDM
5	県発出文書(生活衛生課)
36	生活学校
38	保健所からのFAXです

⑤あなたは「100%安全な食品はないこと」について、どう思われますか？

回答内容	件数	割合
強くそう思う	22	51.2%
やそう思う	16	37.2%
あまりそう思わない	3	7.0%
全くそう思わない	0	0.0%
わからない	1	2.3%
無回答	1	2.3%
計	43	100.0%

問2. 本日の意見交換会について

①意見交換会に参加した目的

回答内容	件数	割合
①話したかったから	3	6.4%
②聞きたかったから	17	36.2%
③面白そうだったから	8	17.0%
④関心があったから	1	2.1%
⑤知りたかったから	13	27.7%
⑥その他()	2	4.3%
無回答	3	6.4%
計	47	100.0%

※2名複数回答

②どの程度満足できるものでしたか？

回答内容	件数	割合
①十分満足	6	14.0%
②ほぼ満足	29	67.4%
③あまり満足できなかった	2	4.7%
④まったく満足できなかった	1	2.3%
⑤どちらでもない	0	0.0%
無回答	5	11.6%
計	43	100.0%

③、④満足できなかった と答えた方に伺います。

満足できなかった点(具体的に)

※40は、「ほぼ満足した」と回答

- 13 何かを期待していたわけではないので
- 30 話し合いたいテーマが種々の職業とか、知識のレベルによって異なると思った。テーマを3つにしないで1つに絞った方が自分が話し合いたいテーマにされると思う。
- 40 先生の専門的な事も話して頂きたかった

問3. 意見交換会についてどう思われたか？

回答内容	件数	割合
①評価する	15	34.9%
②まあまあ評価する	22	51.2%
③あまり評価しない	3	7.0%
④まったく評価しない	1	2.3%
無回答	2	4.7%
計	43	100.0%

理由	
1	割と貴重な機会ではあると思う
3	自由な論議ができる雰囲気ができているのが良い。制限されない。
4	様々な人の意見を聞いたり、自分の意見を話すことで問題を共有できたり、明確にすることができるから。
6	直接、様々な立場の方との意見をきける機会はめったにないので貴重でした。
7	講師の話だけを聞くよりも、みなさんの意見を聞くことができ、その中で考えさせられたことやこれから必要なことなど、発見が多かった。
8	個人的キャラクターに左右されやすくなると思いました。いろいろな人がいるという…再認識もしましたが…。
10	色々な、食に対する考え方があることに気付かされた
11	様々な立場の方の生の意見を聞くことができる
13	効率が悪い。共有できたとは思えない。皆が勝手な事を言うだけ。
15	いろんな考え方やくらしがあることを前提に身近な話題から食の安全・安心を考えることは大切だと思いました。学習をすすめると「むずかしい」内容に深化することがあるのですが「わかりやすさ」「広がりやすさ」は絶えず重要ですね。
16	いろいろな立場の方々の意見がおもしろかった。と同時に、もっと勉強しなければならないと思った。
19	同じ事に興味がある方が同じグループになる方が良いと思うので班づくりはテーマを決めてから組んで欲しい。
20	いろいろな方のご意見が聞けたので
21	年代が様々なので考え方に差がある
22	自分の意見を言えたことは良かったです。それにも増して生産者の方の安全に対する意見を聞けたことは意義がありました。
25	多方面からの情報が得られた
26	生活者の方々の生の声は大切
27	他人の意見を聴けるし、自分の意見も批判されずに思ったことを述べられたから
28	自分の意見に対し他の人はどう思うか 何を考えているのかが分かるのはこれから先生活するにあたり充分プラスになると思います。
29	情報を共有できる場ができよかったと思います。
30	意見交換は前もってテーマをいくつか決めておいて、話しあいたいテーマを話し合いたい。多数決でも、自分が考えていたことが解決されないのはとても不満でした。話し合いはとても良いと思いますが。
32	個々のお話を聞きましていろいろと勉強になりました。
33	自由に意見を言い合ったから
35	皆んなの意見(考え)が良く分った。
36	種々の人の話を聞けて参考になりました。
38	それぞれの立場の方の意見をきくことができました。男性の方の意見も参考になりました。
39	第1回にしては参考になりました
40	誰もの意見も聞けたのでよかった。講師の先生のご指導も最後に聞けた方がもっとよかったと思います。
41	若い方が多くグループに入り、感心する程、よく考え、勉強になり、生活して行くにはかきこい、消費者になろうと思った。
42	いろんな考えを出して話し合えたので、大変よかったと思います。また、企画してください。

問4. 意見交換会の進め方について、意見交換会の全体の印象を通じて感じた印象は？

i. 意見交換会の開催手続きは適切であった

回答内容	件数	割合
①たいへんそう思う	15	34.9%
②そう思う	22	51.2%
③あまりそう思わない	3	7.0%
④そう思わない	1	2.3%
無回答	2	4.7%
計	43	100.0%

ii. 配布資料はわかりやすかった

回答内容	件数	割合
①たいへんそう思う	13	30.2%
②そう思う	26	60.5%
③あまりそう思わない	1	2.3%
④そう思わない	0	0.0%
無回答	3	7.0%
計	43	100.0%

iii. DVDの内容はわかりやすかった

回答内容	件数	割合
①たいへんそう思う	15	34.9%
②そう思う	24	55.8%
③あまりそう思わない	2	4.7%
④そう思わない	1	2.3%
無回答	1	2.3%
計	43	100.0%

iv. ディスカッションの進め方についての説明はわかりやすかった

回答内容	件数	割合
①たいへんそう思う	16	37.2%
②そう思う	23	53.5%
③あまりそう思わない	2	4.7%
④そう思わない	0	0.0%
無回答	2	4.7%
計	43	100.0%

v. グループディスカッションの進行役の進め方はよかった

回答内容	件数	割合
①たいへんそう思う	18	41.9%
②そう思う	20	46.5%
③あまりそう思わない	3	7.0%
④そう思わない	0	0.0%
無回答	2	4.7%
計	43	100.0%

vi. 活発な意見交換だった

回答内容	件数	割合
①たいへんそう思う	19	44.2%
②そう思う	19	44.2%
③あまりそう思わない	3	7.0%
④そう思わない	1	2.3%
無回答	1	2.3%
計	43	100.0%

vii. 他の参加者の意見を聞くことはよかった

回答内容	件数	割合
①たいへんそう思う	23	53.5%
②そう思う	16	37.2%
③あまりそう思わない	2	4.7%
④そう思わない	1	2.3%
無回答	1	2.3%
計	43	100.0%

問5. 本日の意見交換会について、ご意見やご感想をお書き下さい

3	消費者、生産者の参加が多いと思えたが企業関係者が少ないと感じられた。また、消費者も何らかしらの団体やNPO(?)に属している方が多いようであり、人を集めるのは難しいと思うがごく一般的な消費者の参集も必要と考える。
5	とても勉強になりました。食の安全に関しては、皆さんたくさんの不安があり、このような会では取り上げるテーマは限りがないのかなと思います。生産者、消費者、専門家(?)の意見が聞けて、刺激になったとともに、食に対する片寄った知識しかないことを感じさせられました。どうもありがとうございます。
6	時代の流れか消費者のメーカーに対する不信感、厳しい意見をきくことができよかったが疲れました。メーカーから参加したので責められっぱなしの感がありました。
11	議論がしばしば横道にそれ、修正が難しいと思いました。リスクコミュニケーションは、とても大切な取り組みだと思います。もっと多くの参加者に幅広く参加していただけると良いと思いました。
13	DVDの音が悪く聞きづらい。13:00~16:30は長すぎ。隣のグループの声がうるさい。堀口先生の話をもっと聞きたかった。
14	活発な話しあいが行われ、ファシリテーターが上手にコントロールしてくれたので効果的な話し合いが行われた。ファシリテーターの力量の重要性が感じられた。
15	神奈川県から参加しましたが、県、市が主催でこのような場があることは、とてもすばらしいと思いました。食の安全・安心には、一人ひとりの参加が必要だと思いますので、日本全体でこういったことが広がっていくとよいと感じられた。
19	他人の意見を聞いたことは良かったが、一部の方の話が長くなってしまった。時間を決めて意見交換を行わないと難しいなと感じました。たくさん話が聞けて勉強になりました。
20	改めて、自分の五感や消費者として考えていかなければいけないと思った。
21	人数が多かったように思う(グループ分け) 違う意見を持った方の話を「そうか」と聞くのはむしろかしい
28	とても勉強になりました。知らなかったこともあり、よかった。
29	今後もぜひこの様な場をもうけてほしいと思います。とても勉強になりました。また、自分にはない思いや意見が聞けて良かったです。
30	折角の話し合いの時間を多くとってもらったのに自分が考えてきたテーマが話し合われなかったことは残念でした。同じテーマを話し合いたいグループに分けて話しあいたかった。
35	それぞれの生活状態で考えかたが違う。
37	今後も開催して下さい。ありがとうございました。
38	指示を通りに皆理解してより意見が出たと思います。脱線することなくよく話し合えたと思います。
40	デルファイ法は初めてでしたが、とてもよかったと思います。
41	みんなで話し合う事は予想してこなかったので少々疲れた。しかし、全体の様子がよくわかり、話し合った事が共通していた所もあり、楽しかった。
42	皆さん活発に意見をして下さいました。大変参考になりました。ありがとうございました。
43	第2回開催し各市町公共団体と実施してください。

■「食品に関するリスクコミュニケーション(大分)ーみんなで話そう！食の安全ー」■報告

日時:平成21年1月30日(金)13:00～16:30

場所:大分県消費生活・男女共同参画プラザ(アイネス)2階大会議室

主催:食品安全委員会、大分県

参加者:34名(消費者団体、事業者、行政職員等)

目的:①参加者同士が食品の安全について話し合うことを皮切りに、身近なところから食の安全について理解を深め、情報の交換及び共有を図ること。

②食品安全委員会が実施した指導者育成講座やリスクコミュニケーター育成講座受講者(以下、講座受講者)の活動の機会を設けるとともに、講座で学んだ内容を生かし、新しい意見交換会の手法をモデルとして実施する。

議事:

(1)オリエンテーション

(2)DVD上映「21世紀の食の安全～リスク分析手法の導入～」

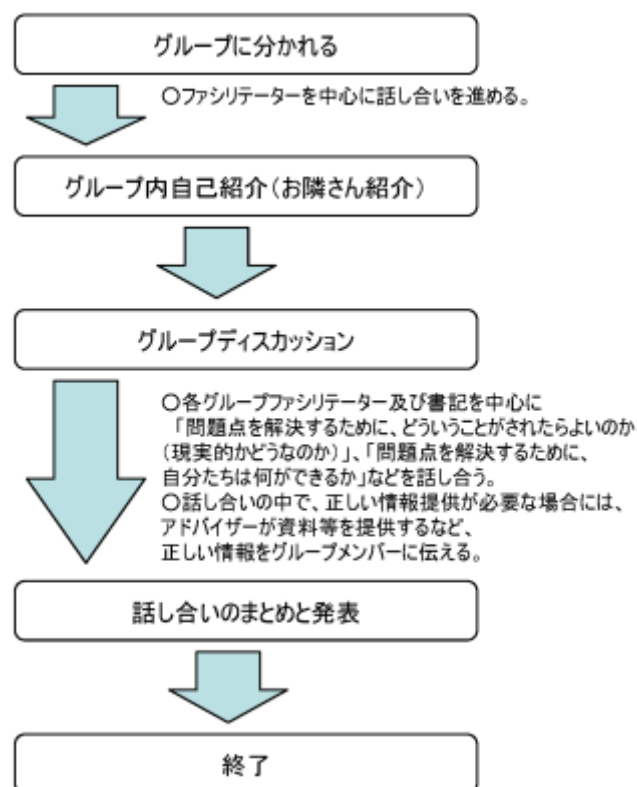
(3)グループディスカッション

全体コーディネーター:順天堂大学医学部公衆衛生学教室助教 堀口 逸子

講座受講者:各グループに食品安全委員会が実施する食品の安全性に関するリスクコミュニケーター育成講座の受講者をファシリテーター及びアドバイザー(正しい情報の提供者)役として配置した。

内容:

- ・申込時に「食に関して気がかりなことは何ですか」という問いかけで、話し合いの希望テーマを1人3つまで出してもらい、当日までに上位3テーマとして「輸入食品」「食品偽装表示」「農薬」に絞り込んだ。
- ・3テーマの中から、自分が話し合いに参加したい希望テーマごとに参加者34名を7グループに分け、ディスカッションを行った。
- ・ディスカッションは、各グループのファシリテーター及びアドバイザー役を中心に「問題点を解決するために、どういうことが行われたらよいのか」、「問題点を解決するために、自分たちは何ができるか」などを念頭に進め、最後にまとめとして、グループごとに「食の安全を守るために必要だとわかったこと」等を発表した。
- ・参加者からは「このような小さなグループで話し合いをする機会がなかったので、様々な立場の人の意見が聞けてよかった」といった感想が寄せられた。



※ 参考2に会場の様子(写真)、別紙2に参加者アンケート結果を添付。

(参考2)

「食品に関するリスクコミュニケーション(大分)ーみんなで話そう！食の安全ー」実施概要
～会場の様子～

大分県生活環境部審議監の開会挨拶



クロスロードを交えたグループディスカッションの説明(順天堂大学堀口先生)



グループディスカッションのスタート時



グループディスカッション中盤



会場全体の様子

(別紙2)

食品に関するリスクコミュニケーション(大分)ーみんなで話そう！食の安全ー

参加者数	34
アンケート回収数	27

<アンケート記入者について>

①性別		
回答内容	件数	割合
男性	9	33.3%
女性	18	66.7%
無回答	0	0.0%
計	27	100.0%

②年齢		
回答内容	件数	割合
20歳未満	0	0.0%
20歳代	0	0.0%
30歳代	0	0.0%
40歳代	4	14.8%
50歳代	7	25.9%
60歳代	11	40.7%
70歳代以上	5	18.5%
無回答	0	0.0%
計	27	100.0%

③職業(立場)		
回答内容	件数	割合
①消費者団体	9	33.3%
②主婦・学生・無職	7	25.9%
③生産者(農林水産業従事者)	0	0.0%
④食品関連事業者・団体	5	18.5%
⑤マスコミ	0	0.0%
⑥行政(自治体職員, 独法職員)	2	7.4%
⑦食品関連研究・教育機関	0	0.0%
⑧その他	4	14.8%
()		
無回答	0	0.0%
計	27	100.0%

その他()

食品衛生協会(3)
消費生活セミナー会員

④意見交換会情報入手手段		
回答内容	件数	割合
食品安全委員会HP	1	3.7%
栃木県HP	1	3.7%
宇都宮市HP	0	0.0%
食品安全委員会メールマガジン(e-マガジン)	0	0.0%
栃木県メールマガジン	0	0.0%
関係者からのご案内資料	20	74.1%
知人からの紹介	1	3.7%
その他	2	7.4%
無回答	2	7.4%
計	27	100.0%

その他()

生活学校で知った(2)

⑤あなたは「100%安全な食品はないこと」について、どう思われますか？

回答内容	件数	割合
強くそう思う	19	70.4%
やそう思う	7	25.9%
あまりそう思わない	1	3.7%
全くそう思わない	0	0.0%
わからない	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	27	100.0%

問2. 本日の意見交換会について

①意見交換会に参加した目的

回答内容	件数	割合
①話しかかったから	1	3.7%
②聞きたかったから	7	25.9%
③面白そうだったから	1	3.7%
④関心があったから	1	3.7%
⑤知りたかったから	9	33.3%
⑥その他()	1	3.7%
無回答	7	25.9%
計	27	100.0%

②どの程度満足できるものでしたか？

回答内容	件数	割合
①十分満足	4	14.8%
②ほぼ満足	14	51.9%
③あまり満足できなかった	3	11.1%
④まったく満足できなかった	0	0.0%
⑤どちらでもない	0	0.0%
無回答	6	22.2%
計	27	100.0%

③、④満足できなかった と答えた方に伺います。

満足できなかった点(具体的に)

進行役がモタモタしていた。
グループが少人数過ぎた。ファシリテーター、アドバイザーの方はほとんど機能していませんでした。

問3. 意見交換会についてどう思われたか？

回答内容	件数	割合
①評価する	7	25.9%
②まあまあ評価する	15	55.6%
③あまり評価しない	0	0.0%
④まったく評価しない	1	3.7%
無回答	4	14.8%
計	27	100.0%

理由

意見を出すだけで結論が出ない。
いろいろな意見が聞かれてよかった。
色々な立場の人と情報交換による問題を共有することが出来た。
消費者の意見を聞くことができて参考になりました。
一言で食の安全と言っても天変幅が広いと思います。そこで、より多くの人たちと話し合って行かなければならないと思う。
良い意見を聞けましたので今後の参考にしたい。
他の参加者の意見や考え方、自治体のリスクコミュニケーションについていくらか理解が出来ました。
評価しますが、各人の立場を明確にされてから討論するようにした方が良いかもしれません。
いろんな事が大変よく理解出来ました。
生産者の方がグループにいなかったの少し話しが聞きたいものがありましたが、自分の気持ちを言えた場としてよかったと思いました。生産者の良心的な気持ちを望みます。

問4. 意見交換会の進め方について、意見交換会の全体の印象を通じて感じた印象は？

i. 意見交換会の開催手続きは適切であった

回答内容	件数	割合
①たいへんそう思う	7	25.9%
②そう思う	15	55.6%
③あまりそう思わない	0	0.0%
④そう思わない	1	3.7%
無回答	4	14.8%
計	27	100.0%

ii. 配布資料はわかりやすかった

回答内容	件数	割合
①たいへんそう思う	7	25.9%
②そう思う	14	51.9%
③あまりそう思わない	1	3.7%
④そう思わない	0	0.0%
無回答	5	18.5%
計	27	100.0%

iii. DVDの内容はわかりやすかった

回答内容	件数	割合
①たいへんそう思う	12	44.4%
②そう思う	10	37.0%
③あまりそう思わない	1	3.7%
④そう思わない	0	0.0%
無回答	4	14.8%
計	27	100.0%

iv. ディスカッションの進め方についての説明はわかりやすかった

回答内容	件数	割合
①たいへんそう思う	6	22.2%
②そう思う	11	40.7%
③あまりそう思わない	5	18.5%
④そう思わない	0	0.0%
無回答	5	18.5%
計	27	100.0%

v. グループディスカッションの進行役の進め方はよかった

回答内容	件数	割合
①たいへんそう思う	8	29.6%
②そう思う	10	37.0%
③あまりそう思わない	2	7.4%
④そう思わない	3	11.1%
無回答	4	14.8%
計	27	100.0%

vi. 活発な意見交換だった

回答内容	件数	割合
①たいへんそう思う	9	33.3%
②そう思う	9	33.3%
③あまりそう思わない	4	14.8%
④そう思わない	0	0.0%
無回答	5	18.5%
計	27	100.0%

vii. 他の参加者の意見を聞くことはよかった

回答内容	件数	割合
①たいへんそう思う	13	48.1%
②そう思う	8	29.6%
③あまりそう思わない	1	3.7%
④そう思わない	0	0.0%
無回答	5	18.5%
計	27	100.0%

問5. 本日の意見交換会について、ご意見やご感想をお書き下さい

食の安全についてリスクが多いことが分かりました。
①グループの人数を考慮して欲しい。
②アドバイザーの選出をバランスをとって欲しい。
③会場が狭く他のグループの声が耳に入り集中出来なかった。
クロスロードが速く進行しすぎて、何を目的としたのか理解しづらかった。
グループの進行状況を講師等が巡回して助言してほしかった。
ファシリテーションになっていなかったのでは？テーマがはっきりしなかつたしまとめもポストイットに各自が書いて貼っただけだった。
ディスカッションは大変役に立ちました。
運用側でのルール等事前統一をより高度にお願いします。グループ分けは本当に「希望」だけでよかったのかも疑問が残りました。
本日は大変よい勉強になりました。
グループ別に分かれたが他のグループの意見も聞きたかったので、代表に発表してもらったら良いと思います。

■食品に関するリスクコミュニケーション(岡山)ーもっと知りたい食品添加物ー■報告

日時:平成21年3月13日(金)13:00～17:00

場所:三光荘2階アトリウムホール

主催:食品安全委員会、厚生労働省、岡山県

参加者:85名(消費者、事業者、行政職員、公募による参加者など)

目的:①食品添加物の安全性について理解を深める。

②講演内容から食品添加物についての疑問や質問を出し合い、グループで整理をすることにより、有意義かつ効果的な意見や情報の共有を図る。

③食品安全委員会が実施した指導者育成講座やリスクコミュニケーター育成講座受講者(以下、講座受講者)の活動の機会を設けるとともに、各育成講座で学んだ内容を生かし、新しい意見交換会の手法をモデルとして実施する。

内容:

(1)講演:

・食品添加物のリスク管理について 厚生労働省医薬食品局食品安全部

基準審査課基準策定専門官 小山田 光孝

・食品添加物のリスク評価について 食品安全委員会委員 廣瀬雅雄

(2)参加者によるグループワーク(講演を聴いて疑問に思ったこと、もっと知りたいこと等の整理)

講座受講者:各グループに食品安全委員会が実施する食品の安全性に関するリスクコミュニケーター育成講座の受講者をファシリテーター(世話役)として配置した。

(3)グループワークで出された疑問・質問に対する回答および意見交換

回答者 : 食品安全委員会委員 廣瀬 雅雄

厚生労働省医薬食品局食品安全部基準審査課基準策定専門官 小山田 光孝

岡山県保健福祉部生活衛生課食の安全推進班長 西 克彦

コーディネーター: 内閣府食品安全委員会事務局リスクコミュニケーション官 小平 均

内容:

・食品安全委員会及び厚生労働省から食品添加物のリスク評価やその管理について解説後、参加者が13グループに分かれ食品添加物についての疑問や質問などを出し合い、整理し、意見交換においてその質問に答えながら理解を深めた。

・グループワークは、講演を聴き、疑問に思ったことやより詳しく聞きたいことなどを質問カードに記入し、メンバー同士で質問カードを発表しあう。

・その後、メンバーそれぞれが出した質問カードの中から、「これだけは聞いておきたい2つの質問」を決める。自分自身がもっともだと思う内容の紙を優先度の高い順に3項目挙げ、最も優先度の高いものに3点、次いで2点、次いで1点を与えグループ全体で集計し、得点順に並べる。最高得点の項目がグループにとって最も優先順位が高い項目となり、上位2つを意見交換の時の「これだけは聞いておきたい2つの質問」とする。

・決まった質問は各グループの世話役から発表し、それらの質問に答える形で意見交換が進められた。

※参考3に会場の様子(写真)、別紙3に参加者アンケート結果、別紙4に意見交換時の質問とその回答を添付。

(参考3)

「食品に関するリスクコミュニケーション(岡山)ーもっと知りたい食品添加物ー」実施概要
～会場の様子～

講演時の様子



グループワークの様子1



グループワークの様子2



グループワークの様子3



意見交換時

(別紙3)

食品に関するリスクコミュニケーション(岡山)ーもっと知りたい食品添加物ー

参加者数 :	85
アンケート回収数 :	72

<アンケート記入者について>

①		
回答内容	件数	割合
平成19年度登録リスクコミュニケーター	39	54.2%
平成20年度登録リスクコミュニケーター	22	30.6%
食品安全委員会の公募	5	6.9%
無回答	6	8.3%
計	72	100.0%

②性別		
回答内容	件数	割合
男性	16	22.2%
女性	56	77.8%
無回答	0	0.0%
計	72	100.0%

③年齢		
回答内容	件数	割合
20歳未満	0	0.0%
20歳代	1	1.4%
30歳代	12	16.7%
40歳代	20	27.8%
50歳代	24	33.3%
60歳代	15	20.8%
70歳代以上	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	72	100.0%

④職業(立場)		
回答内容	件数	割合
①消費者団体	1	1.4%
②主婦・学生・無職	25	34.7%
③生産者	1	1.4%
④食品関連事業者・団体	10	13.9%
⑤マスコミ	0	0.0%
⑥行政(自治体職員, 独法職員)	7	9.7%
⑦食品関連研究・教育機関	4	5.6%
⑧その他	20	27.8%
()		
無回答	4	5.6%
計	72	100.0%

その他()

会社の食堂栄養士	2
調理師	2
給食調理員	1
会社員	5
管理栄養士	2
福祉施設職員	2
団体職員	1

⑤意見交換会情報入手手段

回答内容	件数	割合
食品安全委員会HP	2	2.8%
岡山県からの案内資料	59	81.9%
食品安全委員会メールマガジン(e-マガジン)	3	4.2%
関係者からのご案内資料ご案内資料	6	8.3%
知人からの紹介	1	1.4%
その他	1	1.4%
無回答	0	0.0%
計	72	100.0%

その他()

食品衛生協会

⑥あなたは「100%安全な食品はないこと」について、どう思われますか？

回答内容	件数	割合
強くそう思う	42	58.3%
ややそう思う	27	37.5%
あまりそう思わない	2	2.8%
全くそう思わない	0	0.0%
わからない	1	1.4%
無回答	0	0.0%
計	72	100.0%

問2. 本日の意見交換会について

①意見交換会に参加した目的

回答内容	件数	割合
①食品添加物の安全性について理解を深めたかったから	44	61.1%
②自分の意見や考えを話したかったから	0	0.0%
③他の参加者の意見や考えを聞きたかったから	8	11.1%
④これまでにない取組で面白そうだったから	1	1.4%
⑤少人数で相互対話に関心があったから	1	1.4%
⑥国、自治体の行うリスクコミュニケーションについて知りたかったから	6	8.3%
⑦その他	3	4.2%
()		
無回答	9	12.5%
計	72	100.0%

②どの程度満足できるものでしたか？

回答内容	件数	割合
①十分満足	12	16.7%
②ほぼ満足	45	62.5%
③あまり満足できなかった	10	13.9%
④まったく満足できなかった	0	0.0%
⑤どちらでもない	3	4.2%
無回答	2	2.8%
計	72	100.0%

③, ④満足できなかった と答えた方に伺います。

満足できなかった点(具体的に)

難しすぎて眠たくなる。わかりやすく説明してほしい。

消費者代表でもあるリスクコミュニケーターの大きく2の代表質問をそれぞれグループで発表する形式でしたが、2つとなってしまうと、ありきたりの質問にまとまってしまう傾向がある。また、回答も明確なものでは少なかったと感じた。形式的なもので終わらせないためにもっと具体的に知りたいこと、ホンネ部分の掘り起こしが今後大切だと思います。

詳しいこみいった話がなかった。

名称や数値など細かい事は知ることができたが全体的には以前の自分の考え方と変わっていない。
添加物についての事前勉強が必要。
印刷物にそったものも多く、もっと詳しく具体的に聞きたかった。添加物を含む食品をどれだけまで食べても安全か疑問が残る。
余計に添加物に関することに迷ってしまった。講演を聞くのとちゃんと基準をもうけているので安全ですということなのですが、いまいちしっくり入ってきません。本当に情報が氾濫していて困ってしまいました。
意見交換はわかります。
時間がなかった。

問3. 意見交換会についてどう思われたか？

回答内容	件数	割合
①評価する	54	76.1%
②まあまあ評価する	13	18.3%
③あまり評価しない	2	2.8%
④まったく評価しない	0	0.0%
無回答	2	2.8%
計	71	100.0%

理由

小グループで質問するので質問しやすかった
他の方(違う立場)の意見が聞けるから良いと思います。
グループワークは、他の人の意見が聞けるのが勉強になる。
みんなの前での発表は恥ずかしいしイヤなのでグループという少人数で話し合う方がやりやすかった。
意見を交換することで何が必要でどこに問題があるのか少しでも理解できる。
自分の意見をまとめること。発表することは疑問に思っていることを具体的にすることができると思います。より一生懸命講義を聞くことができました。
講演だけでは意見が言いにくい。小グループにして意見交換をすれば意見しやすい。
グループワークそのものは、非常に活発な意見交流ができていたと思う。しかし、その後の意見交換会は正直言わせてもらって、専門職会議になった進捗で少々残念であった。出された回答に対してのさらなる質疑応答の展開が望ましいと思います。
職業、環境の異なる参加者の意見が聞けて良かったです。
他に人の意見を聞くことが少ない。本音の声が聞こえるのが大変よい。
グループ内で色々な立場の人がいて質問をまとめる中で、洋々な意見が出て興味深いものでした。
何がわからないのかを全員で整理できたのがよかった。
いろんな意見を聞けてよかった。
少人数なので意見が言いやすい。
意見を出しても、それを打ち消す発言が出て、あまりいい気持ちではない。
他の人がどういう考え方をしているのか、いろんな角度からよく理解できた。
自分なりの疑問点に色々な意見が出て、言い方は違っても考え方が似ている疑問点にホッとしました。グループの意見交換は有意義でした。色々な意見が聞かれて多少は安心感ができました。
人それぞれ色々な意見があることがわかった。
グループワークが非常によかった。グループの内に専門的な人や、詳しい人と気軽に質問や意見交換ができたので、より理解できたり、周りの気持ちを聞くことができた。
他の参加者の考えを聞くと、考えの幅が広がり自分も向上できるような気がする。こういう場は私にとって好きではないが、自分を少しでも気づきが出来るようにしていきたい。内容はちょっと高度で理解できないことが多かった。
グループにすることにより話がしやすいと思った。
講演が短時間で、グループワークでいろんな意見が出たのでよかった。
質問をし易いシステムになっていて気兼ねがなかった。ただ、「参加者の共通認識が得られるか」という点では講演内容がコンパクトすぎて知識の伝達には時間的に難しい。(知らない人には復習だが全然知らない人には漠然とし過ぎる)ただ、こういう形式での情報収集の機会をもっといただけて勉強になりました。
他の人の考え方が分かったり、自分の考えが深まった。
少人数で話しやすく他の参加者の意見もよく聞ける。
意見が言いやすい。

少人数で、まず紙に書いて意見を交換するという点で後の意見交換がスムーズに出来たと思うし、少人数グループならでわの意見の出しやすさがあった。
自分の意見、疑問が声に出せ、また他人の疑問にも同感することも多く、意見情報の共有もあり学ぶことも多い。
全員の意見が聞け、意見の集約がよくできた。
参加者全員で意見交換できたような気がしました。回答者も分かりやすい言葉で説明していただいた。
参加者が自分の意見を(間接的にでも)発言するやり方は、手法としてはとても良いと思いました。又、コーディネーターの小平リスクコミュニケーション官があえて、こちら側(フロア側)の立場の質問をしてくださったのは、フロア側の満足度も高まると思います。ただ、やはり回答については、国の説明にしたい(説明しやすい)内容についての説明だった気がします。
評価は出来るが、グループワークの時間が少なく意見の説明が十分出来なかったように思う。添加物に限らず食品について広く意見が話し合われた。
①参加者が各々意見を考え発表することができる。②一部の参加者の意見を聞いて終わる形式でないため。
一方的講演では、ズバリ診断型のみのもんた流に勝てない。安全を安心に転化される方法の一つ。
少人数での意見は言い易く、話の流れもスムーズであり、氏名を呼び合うことで親近感も増す。
添加物について、いろいろ知識を得られました。
目新しい研修会でした。参加者の相互の意見が聞けていろんな考えがあることを知りました。
少人数で年齢、性別の違う方々の意見交換が出来てとても有意義に思いました。
同じ考え、違う考えの人がいることで一喜一憂したり、その上で意見、情報の共有化ができ添加物の理解が深まりました。グループワークをすることにより、一人一人が自分の考えを発言できたことがとてもよかったと思いました。
問題に対する解答等から行政の努力も分かったし、グループの話し合いの中では色々内容が聞けて有意義だった。
一方的な受身のやり方よりグループワーク等で出来る意見の方が身に付きやすい。今後このような場所(地区に帰って)での取り組みに役立つ。
安全性についての理解が深められたことと、他の参加者の意見が聞くことが出来てよかった。
意見や情報の共有
生活環境、それぞれの立場などにより観点が異なり、意見が様々にあると痛感した。
消費者の声を拾いやすい。
色々なサイトでの見方がわかるので。
他の人の考え方を聞くことができ参考になる。
他の人がどう考えているの分かり、自分が気付かなかったことを気付かせてもらえて理解が深まった。
他の人の意見、考え方が分かったような気がした。
意見交換により参加された方の添加物に対しての不安(安心・安全)は意見、情報の共有化により理解することが出来た。繁殖試験(ラット)の実験による説明について説明に理解はできたが、完全には理解できていませんが、少しは不安は取り除かれたように思う。
食品は命である。生産者の立場を公表してほしい。
活達な意見を多く聞けた。
他の方の考えを聞くことができるのが良い。専門的なお話を聞くことが少なくなる点が残念。
行政からの一方的な話でなく、皆で解決するとか、反対の意見も聞くことができるので良い。一人では意見できないが、グループでとなると話し合いが出来て、まとめて意見が出せるので安心して質問できる。
詳しく説明せずに疑問を持たせる方法は、今までなかった方法であるから。
いろんな話が聞かれて分かり易いし方法がわかる。
意見が出や易く活発に話し合いが出来た。
他の方の意見が聞けたから。質問について説明が聞けてよかった。
グループ交流することで、違う角度から視点や気づきがあり、添加物について理解が深まりました。
時間がなかった。
色々な意見を把握し共有できた。欲を言えば、一人ずつ専門委員会さんとの面談があれば、疑問が解決できるのでは。今日の添加物の件でも、まだ疑問・不信感が残っているので、他者への情報提供はむずかしいように思う。
種々な方の意見を聞くこともでき、又その方々の疑問に専門家の方に説明していただけるので理解しやすいと思いました。(時々、専門的な用語が分からないので困りました。)
多くの人の思っている事に対しての説明を聞いたこと。

問4. 意見交換会の進め方について、意見交換会の全体の印象を通じて感じた印象は？

i. 意見交換会の開催手続きは適切であった

回答内容	件数	割合
①たいへんそう思う	25	36.2%
②そう思う	37	53.6%
③あまりそう思わない	1	1.4%
④そう思わない	1	1.4%
無回答	5	7.2%
計	69	100.0%

ii. 配布資料はわかりやすかった

回答内容	件数	割合
①たいへんそう思う	17	24.6%
②そう思う	46	66.7%
③あまりそう思わない	6	8.7%
④そう思わない	0	0.0%
無回答	1	1.4%
計	70	101.4%

iii. 講演Ⅰ「食品添加物のリスク管理」の説明は理解できた

回答内容	件数	割合
①たいへんそう思う	14	20.0%
②そう思う	47	67.1%
③あまりそう思わない	8	11.4%
④そう思わない	1	1.4%
無回答	2	2.9%
計	72	102.9%

iv. 講演Ⅱ「食品添加物のリスク評価」の説明は理解できた

回答内容	件数	割合
①たいへんそう思う	14	19.7%
②そう思う	46	64.8%
③あまりそう思わない	8	11.3%
④そう思わない	1	1.4%
無回答	2	2.8%
計	71	100.0%

V. グループディスカッションの進行役の進め方はよかった

回答内容	件数	割合
①たいへんそう思う	19	26.8%
②そう思う	42	59.2%
③あまりそう思わない	7	9.9%
④そう思わない	0	0.0%
無回答	3	4.2%
計	71	100.0%

vi. 意見交換時は質問にきちんと回答していた

回答内容	件数	割合
①たいへんそう思う	24	34.3%
②そう思う	34	48.6%
③あまりそう思わない	7	10.0%
④そう思わない	1	1.4%
無回答	4	5.7%
計	70	100.0%

vii. 他の参加者の意見を聞くことはよかった

回答内容	件数	割合
①たいへんそう思う	50	71.4%
②そう思う	19	27.1%
③あまりそう思わない	0	0.0%
④そう思わない	0	0.0%
無回答	1	1.4%
計	70	100.0%

問5. 本日の意見交換会について、ご意見やご感想をお書き下さい

添加物の安全性はよくわかりましたが、まずいものをおいしくしたり、腐る寸前のものも食べられるような加工食品にしたりと、なんだか加工食品＝添加物の入ってる粗悪な原材料の食べ物。というイメージを捨てることはなかなかできません。

講演内容が難しくわかりにくいので、質問がしづらかった。最後の意見交換の時間が長すぎてくたびれた。会場がとても寒かった。

今回、添加物にしばった交換会であり意見集中するので良い方法と思った。

食品添加物について、漠然とした知識しかなかったのですが、正確な知識を得ることができました。リスクコミュニケーターとしての勉強の場がもっとあれば、よいのと思います。－主婦としてはなかなか活動の場は持てません。

小グループでの話し合いでは、よく意見交換ができた。リスクコミュニケーター（代表）小平さんはわかりやすくよかった。「みのもんた」の話ではないですが、テレビとかマスコミ、学校等で、もっと食品添加物だけでなく食育にもっと力を入れて子供から老人まで知識を持つようにしたらと思う。特にこれから育つ子供達に食べることの大切さ、手作りの食事、家族揃っての食事の大切さについて学んでほしい。毎日手料理を家族揃って食事したら精神的にも、肉体的にも健康な子供達が育つと思います。

厚労省の専門家の話を聞く機会をもてたことは、とてもよかったです。又、添加物メーカーの方の話を一部聞くことができ、メーカーの方も、参加者として選んでいることも意外でよかった。

質問にわかりやすく説明してくださり有難うございました。

添加物＝危険 ではないということを理解した。

会を重ねて、いろんな勉強ができ感謝しています。

グループ討議は、いい勉強になります。

今までは食品には必ず添加物は含まれているものだと思っていましたが、複合作用についての質問に多くの方が疑問を持っているのだと実感し、又、質問回答で多少なりとも理解しました。只、添加物の入っていない食品は皆無に等しいと思うので、食品を購入する時は、親、また人からの言い伝えや今までの自分の経験で購入、調理したいと思いました。ただ、添加物と食品に含まれる農薬等の因果関係も知りたいと思いました。

立場やレベルの違う人との意見交換で少しとまどうところもありました。食品の色を美しくしたり、色つやでおいしそうにみせる為の添加物はいらないと思います。

食に対する不安は自分がよく知らないから不安なのだった。最近、周りにいる人が子供の為にグリーンコープで「無添加」と書かれた商品を購入しだしたので、私も「無添加」について過敏になってきていました。「無添加」ってよく分からないから「添加物」が入っているものは体に悪い「敵だ」と思うようになり、身の回りが「添加物」にあふれているから怖くなっていました。今回、この講習を受けて私の中の「添加物」に対する不安がなくなりましたが、次に残留農薬に対しての不安がシフトしていています。やはり知らないから不安なのです。「添加物」に不安を感じている人に今回の内容を伝えようと思います。

食品添加物の安全性について理解できた。私たちは日々多くの添加物をとっているがバランスのとれた食事をしていれば、いたずらに不安にならなくてよいと分かった。

消費者がもっと勉強して、きちんとした理解をし全員が同じ情報を持てるようコミュニケーションしなければいけないと思った。

コーディネーターの方がうまくまとめて意見として質問してくださいましたが、返答がかみ合っていない場合が多く分かりづらかった。表面的な返答ばかりで核心にふれた返答がなくコーディネーターの方が再度要約して質問解答する機会が多くて、主催者側よりで参加者が置いていかれる様なイメージの会だった。参加して、食品添加物に詳しくなればと思いましたが、具体的によくわからない結果に終わり、これを「リスクコミュニケーターとして他に広めてくれ」と言われて転嫁されても困る。添加物の会議なので添加物の冊子を1冊だけ各テーブルに置くのではなく、一覧になった用紙が配布してあれば日常の買い物で利用できたりして便利なのと思った。もっと消費者レベルに立ってほしい。

基礎になる知識の違いのある複数人への研修は、どこに視点をおくか難しいと思います。質問を出し、それに答えるこの形式はおもしろかったです。グループで2点の質問提示だったが出した質問に全て後から回答配布していただきたかった。
時間が長い。色々な情報は大切だと思いますが、もう少し短い方が助かります。許容量オーバー(頭の中)
係数やデータについても例外のないものはなく、今日の資料・講演が全てではないことが分かった。「みのもんた」の情報も「最新のものが聞けて」マスコミを等して情報が早く頼りにすることがあると思う。しかし専門的な事は厚労省をはじめ行政の情報が頼りです。NHKなどに定期的 ゲスト出演(民間でも)などは余計な経費は掛からないのでは。もしかして視聴者もゲストとして希めば出来るかも。やはり、マスコミの力は大きい。一般の人も誤解している事、不安な事の質問もあると思う。
専門家の方々が多く来られ、一つ一つの質問に答えて下さったので大変有意義な時間を過ごせました。
グループワークの時間をもっとゆっくりとっていただきたかった。
リスクコミュニケーション相互の繋がりが持たなくて単独行動である。連携を持てるようにしてほしい。(例)名簿などの公開。
質問の幅が広く内容を少しまとめて、順に説明があればと思いました。(添加物そのもののこと、取り扱い方、検査についてなど)今回のような内容についてどのように消費者に伝わっていくのか、大切なことであるが、かえって不安にも感じる。現状の食生活での食品の選び方の難しさを考えさせられた。
今日は質問に対して適切なご解答等を頂きすっきりです。「安全なんじゃない」と安心して口に入れられる気持ちです。ありがとうございました。
長時間だと思って参加しましたが、あっという間でした。
駐車場があればもっとよかったですね。
※食品添加物、あらゆる食品について消費者、消費者団体、生産者、業者、行政、又関連団体の連携を強くして、これからの食品安全の信頼を築いていかなければいけないと思いました。※添加物のメリットも理解できました。
医薬品と添加物で人体におよぼす影響が全く違うことが分かり安心した。
昨今、食の安全がおびやかされることが多く、不安な毎日を過ごしているといっても過言ではありません。リスクコミュニケーションとして、このような研修をしてくださったことに感謝致します。進め方も意見交換もでき、専門家の話も聞け、資料もいただけとても良かったです。次回は農薬のこともしていただけたら嬉しいです。ありがとうございました。皆さんにも伝えていきたいですし、いかなければなりませんね。(鶏インフルエンザ、偽装表示、遺伝子組換え食品、クロン牛、狂牛病・・・食の安全に関わる様々な問題もお願いします。)
今日の会を通じて、今まで添加物は×という気持ちが少し弱くなった感じがします。しかし、これからも色々アンテナを張って、いろんな情報を取り込んで自分なりに消化していこうと思います。正しく判断するのは難しいと感じます。
グループワークの時間がもう少しほしいと感じました。とても良い意見が出るし参考になった。
意見交換時の質問等に誠実に答えてくださった事が良かった。大変勉強になりました。(目からウロコ)ってこともありました。
・講習会等は定期的にやった方がいい。・全体を通して分かりやすかったです。・色々意見を聞けて良かった。
つまるところ消費者が賢くならなければならないということでしょうか。
勉強になりました、また機会があれば参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。
添加物は安全でないと思っていました。今日の会で安全と習いましたが、まだ不安が残っています。もう少し自分に納得できるまで学習してから皆様に伝えたいと思います。
疑問点について、先生が分かり易く説明してくださり非常に勉強になりました。
本日は理解を深めるのにたいへん役に立ちました。ありがとうございました。
意見交換会は評価できると思った。リスクコミュニケーションの目的が理解、食に関する安心安全を伝えていきたいと思っています。
食品添加物についてのCD、DVDが欲しいです。今少し時間が不足です、午前・午後も出来たら良いです。
貴重な学びの機会創出に感謝しています。ありがとうございました。
駐車場のある会場または、駅に近い方がよかった。アレルギー食品に関する勉強会を希望します。
ファシリテーターとして、皆さんに十分お世話役ができたかどうかに関しては疑問です。随分、皆様に助けていただきました。ディスカッションは有意義で良かったと思います。グループでの話し合いは一人より意見が出やすいと知りました。個人で参加して机を前に向けて聞いて疑問は？と聞かれても手が挙げられない、意見を言えない。
難しいが理解は出来た。
今までのいわゆる「交換会」と違って、参加者同士が交流もでき、意見交換も自分の近い感じで参加できました。
沢山の意見が出て、それぞれに考えさせられました。情報にまどわされる事なく、よく勉強していきたいと思います。

食品添加物に関する疑問・質問(グループごと)

複合影響

グループ	質問	質問の背景	回答	主な回答者
M	食品添加物を複数使用した場合のリスク評価はどのように行っているか。	多種類の食品添加物が使用されている場合が多い。また、無毒性量が代謝できる量とするならば、多種類の食品添加物を総量として摂取したときは安全性が変わるのではないか	質問の多い内容であり、感心が高い事項であると感じている。	食品安全委員会
K	複数の添加物を摂取した時の毒性の評価は出来ているか？	リスク管理とリスク評価のお話を聞いて感じた。	複合影響としては同じ化学物質でもヒトに対して作用を及ぼすように使用する医薬品では特定の食品との間で相乗効果があることが知られている。 (例えば医薬品と食品、医薬品と健康食品の相乗効果)	
B	複数の添加物を摂取(すること)についての安全性(はどうか)	一日の中には多くの添加物が含まれており、摂取量がないので不安である。ホームページでも確かめたい	しかし、食品添加物とは同じ化学物質でも医薬品との違いは、作用を及ぼさない量以下で、しかもかなりの少量で使用するという点である。	
D	添加物の単一、複数での場合、複合で(摂取する)の健康への影響は？	加工食品には様々な添加物が使用されていることから	そのため、食品添加物同士の複合摂取で作用が現れる量に達することはないと考えられている。	
L	日常の食生活では色々は食品を食べていますが、トータルの食品添加物の摂取量や相互作用については問題ありませんか？	個々の設定はよく分かったけど、全体の話がよく分からなかった。	食品安全委員会では平成18年度に「食品添加物の複合影響に関する情報収集調査」を実施したが、個々の添加物として評価されている影響を超えた複合的な影響が顕著に出ていた事例は見出されなかった。ADIの考え方を基本として個別にリスク評価していくことにより、その複合影響についても安全性が確保されるものと考えられる。	
H	添加物が体内に入る時の体への影響は？	何種類か食べた際の食べ合わせ・化学反応。リスク評価がどこまでできているか。		

安全係数、ADI

グループ	質問	質問の背景	回答	主な回答者
F	安全係数の設定根拠、種差10、個体差10はどのようにして決められたのか	ADIの設定根拠はこれでもいいのか？食べる量は大人、小人、男性、女性で異なるのに、食生活で食べる量はみんな違うのに・・・	安全係数は、国際的にも一般的に種差や個体差を考慮して経験的に100を用いている。ヒトのデータがある場合は、10ということもある。試験データが短期間(90日間)の毒性試験のみで、長期間(1年間)の毒性試験がないような場合は、逆に100より大きい、例えば1000にすることもあある。	食品安全委員会
H	安全係数の設定の根拠	動物とヒトとの種差10、ヒトとヒトとの個体差10。数字がきれいに揃いすぎている。	安全係数の「ヒトの中での個体差」10の中に、高齢者、幼児等の幅も考慮されている。	食品安全委員会
J	ADIについて詳しく知りたい。消費者へ十分公表されているのでしょうか？	ADIの決定には健康体だけでなく、機能低下された人、幼児等配慮されているか知りたい。	また、動物実験においては子供に対する影響評価として、繁殖試験及び催奇形性試験で確認している。実験的には授乳中の親動物に食品添加物を与え、生まれた児に対しても食品添加物を与えることで生殖機能への影響を確認している。	

添加物とアレルギーの関係

グループ	質問	質問の背景	回答	主な回答者
M	食品添加物がアレルギー体質や知能・精神に影響すると主張する人がいるが、どのように科学的に否定されているか。	不安に思う人が多い。(専門家、特に医師で主張している人がいる。)	指定添加物については、即時型アレルギー、遅延型アレルギー試験などの抗原性(アレルギー性)試験を行っている。この試験法はモルモットやマウスを用いた試験だが、これらが100%ではない面もあるので、現在、ヒトにそのまま使えるような試験法の開発が行われている。	食 品 安 全 委 員 会
E	添加物とアレルギーの関係、化学的なものと自然のものとの関係(例えばヨモギの色素ではアレルギーはおこらない)	自然なものならアレルギーにならない。	既存添加物については、個別のアレルギー試験は行われていないが、これまでの長い食経験からアレルギーについては可能性は低いと考える。	

添加物の指定について

グループ	質問	質問の背景	回答	主な回答者
I	添加物の指定されるまでの期間と、消除される場合の理由とその責任はどうなっているのでしょうか。	後で間違いや研究で危険が発見された時は手遅れではないですか。	●食品添加物の指定には、長いもので申請から1年半程度かかる。 指定までの標準的事務処理期間としては1年であるが、業者に追加資料を求めている間、食品安全委員会等における指摘事項に対し、回答するまでの間は除かれる。 ●見直しの状況 これまでに71品目が消除された。 内訳としては、流通実態がないために消除したものが70品目、それ以外の1品目はアカネ色素で、試験研究機関の試験途中で腎毒性を認めたため消除された。 明確な試験結果がえられない限りは消除されることはなく、明確になった時点で、食品安全委員会の評価を受けただうで、消除される。 アカネ色素は食品安全委員会の評価を受けた後に消除した。 既存添加物の安全性評価については優先順位を決めて試験を実施し、その結果をホームページで公開している。	厚生労働省

基準値の設定と監視体制

グループ	質問	質問の背景	回答	主な回答者
I	添加物の純度は何%でもOKでしょうか。また、添加物の原材(料)購入を企業が勝手に変更しても良いのでしょうか。	国や企業によってちがうのではありませんか。	●食品添加物については規格基準を定めたものがあり、適合していないものは使用できない。過去に、調製粉乳に使われた食品添加物にヒ素が含まれていた事件(ヒ素ミルク中毒事件)があり、それ以来、食品添加物の製造には食品衛生管理者をおいて管理することになった。 ●食品添加物の規格には、含量、性状(色、甘い苦い)、純度(方法、定量試験)などが定められている。純度は、100パーセントのものばかりではなく種類によってもかわる。 ●輸入品については、日本で使用が認められている添加物が使われている場合は問題ない。逆に欧米で使われているが、日本で使われていないものは国内に流通してはならない。使用が認められ、規格基準に適合しているものであれば、どこの国のものでも扱える。	厚生労働省
E	国の機関で使用基準が定められているが現場ではどうか	経済活動との折り合い	●監視の体制は？ 県の状況。県9保健所、岡山・倉敷市2保健所で監視が行われている。 県の状況、約40名の食品衛生監視員が監視を行っている。 また、食品検査の体制は、県の場合は2保健所の検査課、環境保健センターのあわせて3カ所で行っている。 実際は、製造メーカーの最終製品、中間製品を検査、またスーパー等の流通段階にあるものを検査している。	岡山県
C	各食品企業が本当に使用基準を守っているのかどうかをどの様にチェックしているのか	今まで色々事件があったので、企業の信頼感が薄れてきているため	●流通品の検査対象は輸入品、国産品に関わらず検査している。	
B	輸入加工食品の添加物の内容、表示、規制、チェック体制について	食生活に輸入加工食品が多く占めており、内容他、どのようになっているのか不安である。	●輸入される添加物の基準、検査体制 使用基準は海外と異なることがあるが、国内に入るものは国内の基準に適合しているかを検疫所で検査している。 ●すべての検査ができるか 現状の体制では難しい。 来年度も検査員の増員も予定されているが、それでもすべては難しい。 ●検査の割合 一律に何割というわけではなく、違反の蓋然性が高いものは重点的に検査をしている。例えば、命令検査の対象品は、輸入の都度検査が必要であり、検疫所で行うモニタリング検査は、監視指導計画に食品群毎の検査件数を定めて検査をしている。	厚生労働省
A	すべての商品を検査することは可能ですか	検査体制が情報不足により不明確では？	すべての流通品を検査するのは、人的、時間的にも難しいので、毎年監視指導計画を定めて検査を実施している。毎年、監視指導計画の中で重点的に取り組む項目を決めている。来年度の重点項目は、輸入食品である。	岡山県
L	業者は本当に基準を守って表示を書いていますか？	期限が切れても長期間食品が長持ちしたりする。偽装表示事件。	パンやケーキを製造しているが、食品添加物は品名を記入して、専用の保管庫で保管していて、混ざらないようにしている。監視でも食品添加物の保管状況の確認等が行われている。	会場(製造者)

食品添加物の表示

グループ	質問	質問の背景	回答	主な回答者
J	添加物の名称と働きがわかりにくい。	消費者にとって理解できなければ、理解しやすい方向へ検討してほしい。(カタカナ語が多い)	●分かるような情報源を教えて欲しい。 食品表示Q&A(厚労省ホームページ)を参考にして欲しい。 実際の表示は、用途が限られているものは用途名併記だが、それ以外は物質名標記でわかりにくく感じるかもしれない。 一括表示の部分にすべてを入れるのが理想的かもしれないが、枠内にすべての情報をいれるのは難しい。 添加物の表示や用途等に関心がある方はホームページ等の情報を参考にしてほしい。	厚生労働省
A	漬物やカマボコ等に使われる保存料等を具体的に(どんな)添加物(なのか)を説明してほしい	添加物の数が多すぎてよく分からない		
F	なぜ原材料と添加物は区別して表示されなければならないのか？	安全性を評価して使用量が認められているのに、なぜ分けて書かれているのか？安全であれば1つの材料としてみるのであれば単に多い順ではないか？分けて書かれているので、余計不安になるのではないか？悪いから分けているのではないか？すべては消費者への選択の自由に任されているのでは？責任転嫁ではないのか？	例えば、一般飲食物添加物の場合、添加物か、原材料のどちらで使われているかがわかりにくいことから、判別できるように分けて記載している。	厚生労働省

その他

グループ	質問	質問の背景	回答	主な回答者
C	なぜ専門家の言うことより“みのもんた”の言う事の方が信じられると思いますか？	①情報が氾濫していて惑わされる ②行政に対する信頼がなくなっている	・食品安全委員会 マスコミに顔を出してる人が言うから正しいだろうと考えてしまうかもしれない。 食品安全委員会としても情報提供の仕方を考えているところであり、地域のリスクコミュニケーションも重要な部分と考える。 ・厚労省 メディアを通じて楽しいものは受け入れやすい。 国はどうしても全体的な情報提供になってしまいがちなので、このような機会を通じて、正しい情報を地域でさらに広げていただきたい。 ・県 今まで監視等で安全確保を考えてきたが、監視等だけで信頼を得ることは困難である。 これからは安心が得られるようリスクコミュニケーションに重点をおいて取り組んでいきたい。	3者
G	色々と法律があるのになぜ事故が起こったのか	信用していない→広報に問題があるのでは(ないか)。食品と添加物の区分から広報する必要があるのでは(ないか)。	食品添加物に関係する事故として、昭和40年代以降の報告は記憶にない。 ただ、自主回収や報告がないものも存在すると考えられるので、絶対にないとは言いきれない。	厚生労働省
G	添加物により起こった事故の実例でわからない事が多いのが不思議			
D	添加or無添加食品はどちらが安全か？危険性は？	無添加を売り物にした食品の宣伝を多く見かけるが、食品そのものの安全性はよくわからない	○添加物の考え方 食品添加物は、食品の見た目を良くしたり、保存性を高めるといった目的で使用されているもので、我々にもメリットがあり、必ずしも悪いものではないと考えている。	厚生労働省
K	添加物を使わない食品作りは不可能？	保存料なしを見て思った。	食品、添加物についても、100パーセント安全かということではなく、バランスのいい食事、偏らずに食べるとか、同じものを続けて食べないといった工夫も必要と思う。 添加物は使わない方がいいと思っている方もいるかもしれないが、皆さんの意見を聞きたい。	